

NEWS LETTER

2018年1月
3号

岐阜大学イノベーション創出若手人材養成プログラム

巻頭言

教育推進・学生支援機構 機構長 江馬 諭



「飛騨・美濃・尾張地域の新産業の牽引に必要な、マネジメント力、コミュニケーション力、協調性、創造性に富み、国際的な広い視野と実社会のニーズを踏まえた発想を身につけた人材の養成」を目的として、平成22年4月にイノベーション創出若手人材養成センターが開設され、イノベーションスキルプログラムと産学連携教育プログラムが実施されてきました。その後、センターの取組は、イノベーション創出若手人材養成プログラムとして教育推進・学生支援機構（キャリ

ア支援部門）に引き継がれ、現在も継続しています。

2018年度もイノベーションスキルプログラムであるエンライトメント・レクチャー（1単位）、ビジネス英語（2単位）、アイデア・トレーニング・キャンプ（1単位）が開講されます。このプログラムは、博士後期課程に在籍している間いつでも参加できます。さらに、これらの座学を修了した学生さんは産学連携教育プログラムである学外研修に出かけることも可能です。

皆さんが研究室で実験したり解析したりしている研究テーマについて、他の領域の学生さんや様々な国から留学している学生さんと意見交換しませんか。皆さんの研究テーマの意義や価値がブラッシュアップされ、今後の研究が一層楽しくなると思います。

平成29年度活動報告

教育推進・学生支援機構 特任教授 坂口 菜生子

「イノベーション創出若手人材養成プログラム」は、開講してから今年度で8年目になり、これまでにドクターコース112名、ポストドクター14名が受講しました。

このプログラムはドクターコースおよびポストドクターの皆さんを対象に、皆さんが毎日取り組まれている研究の他に、産業界等のニーズを踏まえた発想や、幅広い視野を身につけることを目的としています。

プログラムは次の①～③の座学および学外研修（インターンシップ）からなります。

①エンライトメント・レクチャー（多業種の企業のリー

ダーによる講義）

②ビジネス英語（ネイティブによる英語プレゼンテーションの講義・演習）

③アイデア・トレーニング・キャンプ

（異分野の参加者間の議論を通じて、問題発掘・解決能力を養う集中講義）

今年度は「プログラム研修生」として3名が講義を受講し、来年度インターンシップを実施します。また平成28年度にD1で参加した1名は2017年9～11月にインターンシップを実施しました。

さらに①～③をどれでも1つから履修登録できる「聴講生」として、工学・連合農学・連合創薬医療情報研究科より、延べ33名が受講しました。

これらのプログラムを受講した学生からは毎年、「視野が広がった」「異なる研究室・研究科の友人ができた」との感想が寄せられています（4ページのアンケート結果参照）。

①～③のプログラムは現在博士後期課程に在籍されている方、ポストドクターであればどなたでも履修登録できます。

2018年度の参加者を2018年1月15日（月）から募集します。詳しくは3ページの「平成30年度の予定」をご覧ください。



プログラムの感想

平成28年度プログラム研修生（平成29年度にインターンシップを実施）
連合農学研究科 植物生産管理科学講座 博士課程2年
李 寧



私は博士課程入学通知書を受け取ると同時に、イノベーション創出若手人材養成プログラムの募集要項を受け取りました。調べた上で、プログラムのビジネス英語が英語での発表能力を向上させ、国際学会で役立つと思い、参加を決めました。プログラムでは、アイデア・トレーニング・キャンプなどの授業があり、多分野の博士課程学生と一緒にブレインストーミングを行ったことが互いに価値の高い経験になり、皆が自分の研究能力により自信を持つことができました。ビジネス英語で習得した内容は「未来博士3分間コンペティション2016」の発表で応用することができま

した。さらに、プログラムの担当教員である坂口先生とは定期的に面談し、プログラムの進め方やインターンシップ先の探索など優しく、また根気よく支援していただきました。インターンシップでは、企業における事業内容を理解すると共に、機械学習技術を勉強し自分の研究課題解決に役立てることができました。このプログラムは内容が豊富であり、有効利用すれば、私たちの視野の拡張や今後の研究の発展に有意な影響があります。みなさんもプログラムに積極的に参加することで博士課程をより充実させ、研究を発展させてください。

平成29年度インターンシップ受入企業

テクノデータサイエンス・エンジニアリング株式会社 執行役員 第3データサイエンスグループ グループ長
庄司 幸平



キャリア支援部門の坂口先生より、李寧さんをご紹介いただきました。

李寧さんは自由な発想の持ち主で様々なアイデアを議論することができ、弊社社員にも良い刺激となりました。期間中は弊社の強みである機械学習技術とその活用についてお伝えしました。今後の李寧さんの研究活動・キャリア形成の一助になればと思います。

顧客がモノではなく体験に対して価値を感じるようになった現在、技術そのものが提供する価値とビジネスとして顧客

に受け入れられる価値との乖離が広がっています。企業では自社の技術を開発する能力とともに、その技術を顧客の体験に結びつける能力が求められています。たとえ研究者としてのキャリアを選択するとしてもビジネスを考える役割の人と意思疎通をおこなう能力は必要になると考えられます。インターンシップを検討されている学生の皆様は是非上記のような視点から将来の自分の社会的な立ち位置を想像してみてもはいかがでしょうか。

平成28年度プログラム研修生の指導教員

応用生物科学部 応用生命科学課程食品生命科学コース 教授
前澤 重禮



イノベーション創出若手人材養成プログラムに、私が指導している留学生（博士課程2年生）がお世話になりました。指導教員として心より感謝申し上げます。私はこの制度の理念や目的に関して、当初、十分な知識がない状況でしたが、留学生から「インターンシップに行きたい」という一言から調べ上げ、今では本制度の意義を理解することができました。博士課程に在籍する留学生にとって、数ヶ月間も期間、大学の研究環境を離れ、博士課程での研究テーマと直接的には関

係しない企業で学ぶことによって、大学環境とは異なる日本ビジネスの環境と風土を感じ取ることができることは計り知れない効果があります。近年、中国、韓国の大学生・大学院生の母国での就職環境は非常に厳しいと聞いています。本学のインターンシップが、参加した留学生のキャリアパスにとって有効に機能すると共に、インターンシップで感じ取った日本のビジネス環境の実態が、母国の同世代の若者に正しく伝わっていくことを期待しています。

プログラムの感想

平成28年度プログラム研修生（株式会社デンソーに内定）
 大学院工学研究科 環境エネルギーシステム専攻 博士後期課程3年
久野 敬司



本プログラムの「エンライトメント・レクチャー」、「インターンシップ」から学んだことが就職活動にどのように役立ったのかを、お伝えできればと思います。

本プログラムを通して、研究を「企業」で行うことによって実現できることと、「大学」で行うことによって実現できることの違いを学ぶことができました。それぞれにおもしろさとやりがいがあります。どの道を選ぶにしても大事なことは、「自分が何をしたいか」だと思います。進む道を決める上で、プログラムを一緒に受

講した学生からの刺激は一人で考えるだけでは得られないもので、参加してよかった点の一つです。

就職活動では、修士学生と比べ、「就職してからの具体的な目的は何か?」「深く考えて様々な状況を想定しているのか?」をより深く問われているように感じました。その点もプログラムを通して視野を広げ、目的を明確にしていたことが役立ちました。これから挑む学生さんはプログラムも用いながら、進む道を決めていただけたらと思います。

イノベーション創出若手人材連携育成会 会長
 鍋屋バイテック会社 常務取締役
丹羽 哲也



環境がめまぐるしく変化し、グローバル競争が激化している昨今、新たなアイデアや技術をいかにスピーディーに具現化し、上市していくのかがこれまで以上に重要になっています。また、3Dプリンター等の新たな技術革新のもと、大きな工場や設備を所有しない一個人・一研究者でも、ものづくりが可能な環境が整いつつあります。このような状況下、イノベーションを創発し、世の中をダイナ

ミックに変えていく原動力となるのは、本質的には“知的格闘”をくり返した博士を初めとした高度な研究者であると私は思います。世の中の潮流を捉え、あらゆるしがらみから脱却し、良い技術を良い商品・サービスと共にタイムリーに世に出していく、その具体的能力を当プログラムにて養成され、社会に貢献されることを期待しております。

平成30年度の予定

【募集・選抜スケジュール】※ 詳しくはそれぞれの「募集要項」をご覧ください。

	聴講生	プログラム研修生
応募資格	2018年度のD1～D3 ポストドクター（PD） ※国費留学生・社会人可	2018年度のD1～D3 博士号取得後5年以内のPD ※国費留学生・社会人は不可
応募期間	2018年1月15日（月） ～3月23日（金）	2018年1月15日（月） ～2月28日（水）
面接	なし（書類提出のみ）	あり（書類審査合格后）
受講できるプログラム	イノベーションスキル・プログラム※の少なくとも1つ	イノベーションスキル・プログラム※全て（受講必須）およびインターンシップ（1～3ヶ月あるいは3ヶ月以上）
受講期間	2018年度前期 一度履修登録すれば修了 または退学まで有効	D2・D3・PD：2018年度のみ D1：2018年度前期（講義）+ 2019年度（インターンシップ）



※ エンライトメント・レクチャー、ビジネス英語、アイデア・トレーニング・キャンプ

プログラムアンケート結果

平成29年度前学期のプログラムを受講した学生27名にアンケートを実施し、次のような結果を得ました。

プログラムを受講して成長した：100%			今後プログラムが役に立つと思う：100%	
成長した点	視野が広くなった	74%	【その他】 ●プレゼンテーションに関する様々な技術を習得したことに加え、英語での言い回しや世界基準のジェスチャーについて学べた	●異分野の学生と知り合い、各々の研究について議論することができる数少ない良い機会となる。 ●本プログラムで学んだ、社会人としてマナー、専門外の人とのコミュニケーション能力などは学外研修においてとても役立つと思う。さらに、本プログラムにおいて視野が広がったことは、卒業後の進路を選択するにあたり、非常に役立つと考えられ、普段の研究活動においても、アイデア・トレーニング・キャンプでの経験が生かせると思う。 ●普段研究しているだけでは聞けない企業側のニーズを知ることができ、なぜ博士後期課程に進んだのかを再考し、就活の際に面接でどのような表現をすれば良いのか明確になった。自分の研究をリファインする能力や、専門でない人にどうしたらわかりやすく説明できるかを知ることが出来た。 ●発表の構成や立ち振る舞いなどを基礎から応用まで知ることができ、今後の学会発表等で生かすことが出来ると思う。 ●多様な分野について知ることができ、進路選択の幅や可能性が広がると考えたため。 ●個人として、またチームとしての研究の進め方を見直すきっかけとなった。 ●It broadens my horizon and gives me more effective corporation skills with other researchers. ●By participating this program, the students will have a chance to improve their confident in presentation. Because there are several time to practise the presentation and the students can learn in which part their weakness during the presentation.
	考え方が柔軟になった	52%		
	その他	15%		
向上した能力	プレゼンテーション能力	81%	【その他】 ●対応能力が向上した	
	語学力	78%		
	コミュニケーション能力	63%		
	研究の進め方	33%		
	その他	3%		
良かったこと	企業ニーズが理解できた	70%	【その他】 ●他の分野の学生がどのような仕事をしているのか知ることができた ●Communication, improving my English, improving my presentation skill, how other are handling their research life,	
	新しい友人ができた	63%		
	将来の進路の参考になった	48%		
	研究が進展した	15%		
	その他	18%		

プログラムを後輩・友人に勧めたい：100%

- 進路を考える上で視野が広がるからです。エンライトメント・レクチャーでは企業で働いている人から直接話を聞くことができ、視野を広げることができます。大学での研究だけでは、専門家としての技量は向上すると考えられますが、広い視野を十分に持つことはできないと思います。そこで、企業の方の話を聞くことで、企業ではどのようなことが必要とされているのかを知ることができます。また、博士学生が互いに交流を深める機会がある点も勧めたい理由です。
- 日々の研究で専門分野に偏った視野を、異分野の研究や企業のニーズを知って、広げる良い機会だと感じたから。
- 専門分野が異なる研究者の発表を聞き、自分の欠点や利点を知ることが出来る。また幅広い研究領域で知り合いができ、国際交流もできる。
- 英語力・プレゼン能力の向上は、研究者にとって必須であるから。
- 専門分野の異なる学生同士で研究発表を行い、改善方法などについて議論し合うため、新たなアイデアを得られる刺激的な2日間を過ごせると思います。
- 医療、自動車、食品など様々な分野で活躍する方の講演を拝聴出来ます。他分野に目を向けることで新たな発想を得られることもあるので、受講をお勧めします。
- 経営層が博士後期課程進学者に求める人材像や能力を知ることができた。また分野は異なっても、研究の進め方や取り組み方に対する意識などが参考になった。
- Because it is a good chance to build a communication with other international students, also could learn more about communication in English through the native.
- One can share their research theme, knowledge, skill. And most importantly it's a great opportunity to express their thinking.
- This is a really good opportunity for group studying and discussion which are quite necessary for PhD students.